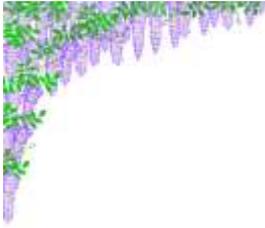


# な る ど

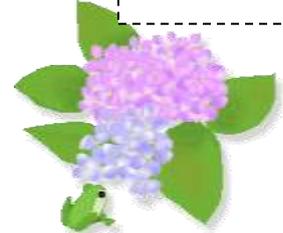
八戸聖書キリスト教会

牧師：澤田隆一  
電話：0178-43-3091

NO・18  
2013年,  
5月26日



## 「互いの徳を高め合う」



ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。

1テサロニケ 5章11節

### 「徳」とは？

①心に養い得たところ。正義が行為に現れること。(広辞苑より)

「徳を高め合う」(英: build up ギ: οἰκοδομεῖτε)とは？

①(建物)建て[られ]る事、建築。強化、善導、建徳。

[信仰の]強化に(役立つ)こと。強められる](ギリシャ語辞典より)

2013年度の八戸聖書キリスト教会の年間目標は、「徳を高め合う教会形成」です。

では、具体的に何をすれば「互いの徳を高め合う」ことになるのでしょうか？

「徳」とは、心に養い得たところ。正義が行為に現れることと広辞苑では定義されています。

新約聖書の原文であるギリシャ語では、信仰の強化に役立つこと、信仰が強められることだと定義されています。

では、正義が行為に現れるとはどんな状態なのでしょう？ 少なくとも、聖書に記された正義とは、人間が自分を基準にして周囲を批評する行為ではないでしょう。そのような歪んだ正義を振りかざす時、人は律法的になり、己以外を否定する存在に陥りやすいからです。

聖書で語られる正義とは、むしろ、弱った者を励ましたり、群れから離れかけているものに対して、戻るように呼びかけたり、執り成しの祈りを捧げる姿こそ神の愛に基づいた正義の姿であり、

「徳を高め合う」=信仰の強化、強められることでしょう。

「互いに励まし合い」と訳されている言葉は、「英: comfort=慰め」とあり、原文であるギリシャ語では、「ギ: παρακαλεῖτε=①励ます。②頼む、願い。③慰め。」という言葉が使われています。つまり、互いに励まし合うとは、一方的に誰かが強い立場で励ましたり、慰めたりするのではなく、励まされる側も、励まされる側も、いつでも立場が反対になることを前提としているのでしょう。ある時は励まされた人も、次の時には励ます側になることもあるのです。そうやって「互いに」励まし合い、慰め合う関係を築くことが教会の「徳を高め合う」土台にあるのです。

このような互いを思い合い、愛し合う関係の中でこそ、互いを正しい信仰の姿に保つことが出来るように正し合うことが可能となるのです。律法や裁きが先ではありません。神の愛が根源にあって「互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい」なのです。

〈八戸だより〉

主の尊い御名を賛美申し上げます。

5月末になってもまだ低温が続く、農作物が実るのかと心配されておりますが、八戸の教会は守られております。お祈りを感謝いたします。

(1) 6月の行事予定

- ・ 6月 1日 (土) ◎教会学校お楽しみ会  
野外遊びやまじわりを通して教会を知らせていきます。  
5/26に案内のちらしを配布予定です。
- ・ 6月 8日 (土) ◎ピースランド恵みの園整備作業  
今年の大きな一つの事業として、同地を主の証のために用いていくプロジェクトを立ち上げました。近くの道路清掃や下草刈、できれば、そこに花を植えることができると願っています。
- ・ 6月 23日 (日) ◎市内合同除草と感謝の祈り会  
年に一度、市内教会合同で、東霊園の草刈とお祈りの集まりをしています。
- ・ 6月 30日 (日) ◎ジョイジョイバザー  
(役員会報告の審議及び決議事項4を参照)  
一人でも多くの方々が教会へ足を運び、教会のことを少しでも知る機会となりますようお祈りください。

(2) 友愛委員会からの計画

被災された方々へ、私たちができることはほんのわずかですが、心からの祈りと愛をお届けしたいと願いつつ、奉仕しています。

復興支援のためにできること (計画の一部抜粋)

6月ジョイジョイバザー、7月夕涼み会、昼食代などの収益金

\* 8月ころまとめて送る。\* 野田村ボランティア活動の団体へ送る。

枕カバー、サロンエプロン、テッシュケース、巾着などの手芸品

\* 8月ころまとめて送る。ボランティア活動している場所や教会のバザーへ送る。被災者に直接あげてもよい。団体にまかせる。

ケーキ、クッキー、野菜の加工品など

\* 9月末か10月ころに送る。ボランティア活動の喫茶店伝道のととき、(交わりや来客者、被災者)使ってもらう。

掘り出し品 (友愛セール) と名づける。

\* 教会近辺の方々に「掘り出し品の売り上げ金は、復興支援義援金へ」という趣旨を知らせ、提供の協力を仰ぐ。  
\* 6月ジョイジョイバザー、7月夕涼み会にて販売を実施する。

クリスマスオーナメント、クッキーなどのプレゼント

\* クリスマスの季節に送る。

(3) 母の日に素敵なプレゼントをもらいました。

婦人の方々は、母の日に男性の方々から、養護学校の生徒たちが作ったという巾着をいただきました。一人一人に合った図柄を選んでくださり、とてもうれしかったです。(この巾着は、「道の駅」で販売しているそうです)

—母を想いつつ、話された証— 3月31日イースター、召天者記念集会にて

本日は、召天者記念会を催して戴き感謝申し上げます。

Aが洗礼を受けて、亡くなるまでの経緯を簡単にお話したいと思います。

Aが他界して丁度17年になります。明治40年生まれですので、生きていれば105歳になりましょうか。他界したのは、2月14日丁度バレンタインの日でしたので、命日を忘れることはありません。88歳で亡くなりましたが、翌月が誕生日ですので、正確には89歳と申していいと思います。

Aが、洗礼を受けた時、70歳を過ぎていたと思います。Bが、敬虔なクリスチャンですので、Aに百万人の福音を送って寄越したり、帰省した時も、事ある毎にAと一緒に聖書の学びをして、導いていました。Aは、素直な人ですので、Bから聖書の話聞き、受け入れて信じていたものと思います。

教会が、ユニバースの近くの民家を借りて宣教伝道していた時、BがAを連れて初めて教会の門をくぐったわけです。そして直ぐさま、ノードス先生の司式のもとに、洗礼に与かりクリスチャンとなったということです。

もともと病弱な人でもあり、高齢でしたので、教会へ赴いたのは、受洗のときだけで、その時が初めて、最後でした。

その後は、笹木先生が、自宅にお出でくださって聖書の学びをさせて戴いてましたが、Aは、ある冬の日、氷の上でころび大腿骨骨折をしました。入院手術をして一応怪我は快復しましたが、リハビリもせず、そのまま寝たきりとなってした。そうこうしている内、今でいう認知症にもなってしまいました。当時は介護保険制度もなく、従って凡そ10年近く在宅介護となりましたが、その時は、私も若かったので、Aの在宅介護に頑張れたと思っています。

笹木先生は、その間ずっと足を運んでくださり、枕元で聖書のみことばをお話してくださいました。先生には大変お世話になり、感謝しております。ある時、いつものように聖書のお話をしていた時、私は不遜にも、「Aはもう何も分からないと思います。」と、失礼なことを申しました所、先生は、「そんなことありません。神様の霊がちゃんと通じておられます。」と、おっしゃられ、私は自分の不明を恥じたことを覚えています。

最後に付け加えさせていただきますと、Aは誕生して間もなく二週間余りで生みの親、つまりお母さんと死別しました。当時流行のスペイン風邪にかかったと言われますが、よく分かりません。そういうわけで、Aは、お母さんの胸にいだかれた経験もなく、また、母乳すら飲んだこともなく、極めて愛に飢えていた寂しい幼児期であったことは間違いありません。しかし、最後は、親の愛に優る神様のご愛に満たされて、幼子のようになって、旅立って行ったと、私は信じています。(私も、洗礼の恵みに預っております。)